

第4回まちなかのぎわい創出円卓会議議事録

議 題	まちなかのぎわい創出に向けた取組について		
協議日時	令和2年2月21日（金）13:30～16:00	会 場	中央公民館講義室
出席者	<p>川口委員、長野委員、小林委員、長谷川委員、村山（宥）委員、藤井委員、吉田委員、結城委員、水沼委員 （欠席）高橋委員、久野委員、松原委員、井上委員、村山（伸）委員 渡辺理事兼市民部長 生涯学習課 笹倉課長補佐、岡田係長、今井主任 地域経営課 新田課長補佐、藤田係長 政策推進課 平岡課長 建設課 小山課長補佐、澤田技師</p>		
傍聴者	なし		
報道機関	なし		
概 要	<p>（司会：生涯学習係長） 1 開会 渡辺理事兼市民部長：あいさつ</p> <p>2 議事 (1) まちなかのぎわい創出に向けた取組について 理事兼市民部長：資料により説明</p> <p>（事務局から川口委員に議長お願いしたい旨を説明、委員からは異議なし）</p> <p>（質疑） 川口委員：事務局からの説明の順番に沿って、順次進めさせていただく。順次、御意見等をお願いしたい。 川口委員：Pay Pay の表示があるがどういうことか。 平岡政策推進課長：昨年秋に包括連携協定を締結し、アプリを通じてキャッシュレスを可能にするもので、歩数に応じてポイントを付与するもの。今年度中に三条市独自のものをつくることにしている。 長野委員：Pay Pay を通してここで何かを産む構想なのか。 藤井委員：歩いて回るイメージだと思う。しかし、車でも行ける。 平岡政策推進課長：スマートウエルネスの観点を含んでいる。 結城委員：既に歩数計と連動してできている。 川口委員：改装予定の町屋と連動して歩くことに繋がれば良いと思う。 小林委員：てんこ盛りのイメージがある。行政として、本気で仕掛けなけれ</p>		

ばならない。

市民部長：様々な選択肢を盛り込んでおり、あくまでイメージとして捉えていただきたい。

藤井委員：鍛冶道場が抜けているのではないか。もっと鍛冶道場をアピールする必要がある。

笹倉生涯学習課補佐：エリア的に一体の取組と捉えている。

長谷川委員：鍛冶道場が出てこない。鍛冶ミュージアムはどういうスタンスなのか。

村山（宥）委員：科学に親しめるイメージがわからない。広場はどういうふう
に活用するのか。

笹倉生涯学習課補佐：現在のところ、例えば、日時計とか井戸のようなものをイメージしている。

川口委員：鍛冶道場が既存としてあるので、科学に興味を持ってもらうような連続性のあるものが必要ではないか。

笹倉生涯学習課補佐：鍛冶ミュージアムと鍛冶道場の連携は模索中である。次回の会議で確認していただきたいと考えている。

藤井委員：南側の駐車場はいつから出てきたのか。

笹倉生涯学習課補佐：北側だけでは不足しているため、南側にも設置する。イベント開催など、場合によっては芝生広場も使う。

小林委員：えんがわの在り方が問題である。原点回帰を考えるべきで釈然としない。

長野委員：コンクリートが多く、一休みするポイントにならない。緑の構成の仕方で、回遊へ繋がるのではないか。また、展示だけではなく、サロンのなものをつくり利用を分散することで動きが生まれるのではないか。

川口委員：緑はすごく大事であり、機能分担を考えるのはどうか。

藤井委員：スマートウェルネスを意識している割には駐車場が増えている。矛盾していると思う。市は何をしたいのか見えない。

市民部長：当初の基本計画と相違している部分はある。北側の駐車場は現図書館の駐車スペースとそれほど変わらないため、市民の要望を踏まえて南側に確保した。また、パークアンドウォークとして、この施設が起点となってまちのにぎわいが生まれてくるものと位置付けており、駐車場を増やしたもの。しかし、緑が非常に大事という意見をいただいた。検討していきたい。

川口委員：4ページ以降はどうか。

藤井委員：中央公民館は、グループ学習の場なのか、それとも個人学習の場なのか。

市民部長：両面あると考えている。

藤井委員：集中したい人のために、階下からの防音に留意してほしい。

笹倉生涯学習課補佐：2階・3階に関しては、カウンターは窓側で外からでも学生が勉強している姿が見えるということが、一つのにぎわいに繋がると考えている。それでターゲットを高校生としている。

小林委員：勉強部屋と公民館事業の棲み分けは必要ないと思うが、防音の問題は出てくる。公民館事業としての考え方は必要だと思う。

市民部長：整理していきたい。

結城委員：高校生をターゲットということに疑問がある。高齢者が圧倒的に多い中で、その人たちにとって居心地の良い場所の方が建設的であり、高齢者の利用し易い空間の方が喜ばれるのではないか。地域には高齢者の割合が多い。少ない階層を集めて取り合うよりも、この人たちに喜んでもらえる場所の提供の方が公共施設の使い方として良いと思う。

小林委員：高校生に限定せず「高校生をターゲット」を取れば良い。

笹倉生涯学習課補佐：勉強する場だけに限定しているわけではない。

川口委員：公民館なので、柔軟性があって良いと思う。実際にやってみて、また方向性が出てくると思う。

吉田委員：このエリアに居住しているが、高齢者が集まる場所がないという意見を聞く。公民館に自由に行って話ができれば、高齢者が元気になれる。それが、高齢者の回遊に繋がり、それが口コミで広がっていき、にぎわいにつながるのではないか。

川口委員：次のページに移りたい。

結城委員：八幡公園にランニングコースがあると良い。緑を見ながら走るのは良い。

長谷川委員：現図書館の1階は、弥彦の丘美術館と同じくらいの広さか。使い方は良いと思う。

市民部長：まず、これは、たたき台として考えていただきたい。広さは少し狭いと思う。

小林委員：郷土館、昭和の暮らし館という名称ができていると、もう名称が決まっているという懸念がある。機能変更については良い。

市民部長：決まったわけではなく、御意見をいただき参考にしたい。名称については改めて考えたい。

藤井委員：名誉市民は広範囲である。確かに集客力があると思う。例えば、G馬場さんは、市外客に絶大に受けるコンテンツだと思うが、若い人は知らない。見せ方が大事だと思う。

長野委員：今、使っている機能を、別の場所でまた使えることを想定して考える。体文で走っている人は、きっと八幡公園が走れるようになれば走る。連携させる使い方を考えるべき。

川口委員：7ページに移る。

市民部長：市内でコレクションされている方がいる。この方から協力いただ

ける方向であることから提案している。昭和をテーマにしたものは他にも結構あると思う。

笹倉生涯学習課補佐：例えば、洗濯板から最新の洗濯機までの変遷を迎えるなど、ものづくりを念頭においた展示が可能だと考えている。

結城委員：今の機能が悪い訳ではない。歴史は魅力的であるが、きちんと伝えている歴史がない。現在の機能で歴史・文化・産業をしっかりと伝える場が大事である。三条祭りのきっかけとか、イカ合戦の歴史とか、ちゃんとした歴史をちゃんと伝えれば良い。燕の産業資料館は魅力的である。することをしないで機能変更は違うと思う。

小林委員：歴史的建造物であり、歴史に特化すれば良いのではないか。

川口委員：学芸員の熱意とか、キーパーソンが必要で、中身を作っていかなければならないのではないか。

市民部長：今、収集していかなければいけない、いわば三条市のアーカイブを担う機能についても、貴重な話をいただいた。検討を重ねたい。

川口委員：8ページ以降に移る。

小林委員：空き家、空き店舗、空き地はあるのか。

市民部長：正確には把握していないが、活用ができるものは把握している。

小林委員：どのような活用とするのかも含め、きちんと把握すべき。学生がターゲットか、定員はどの程度なのか。

地域経営課藤田係長：シェアハウス等の活用も視野に入れているが、手をつけていないのが現状である。

市民部長：看護系学校や大学の設置で、家賃は高いが須頃にアパートが建築される。

藤井委員：場を歩いてみるのが大事。②や③は小路のポテンシャルマップとリンクしている。

市民部長：まだ雑だが、このような形で誘導していきたいと考えている。

藤井委員：12ページの車両の規制はマッチしていない。

市民部長：まだ、候補の段階である。まずは歩く取り組みを優先したい。

藤井委員：大人も楽しめる公道上のかくれんぼのようなものをイメージしている。人の流れをどうするか検討しなければならない。例えば、北三条駅から人の流れがこうだから、こうしたい、など。

吉田委員：公園がきれいになると、自分たちの元気の源になる。八幡公園に目を向けてくれたことに感謝する。公園がリニューアルすることを楽しみにしている。人が流れてくることを意識していきたい。

(質疑が終了し、川口委員から事務局へ)

市民部長：いただいた意見を参考に引き続き、にぎわいの創出に向けた検討を進めていく。

	3 閉会
備考	12 ページは再度検討する。 次回は、ソフトを含めた図書館等複合施設についてを議題とする。